

「日中医学史セミナー2018 in Kyoto」 予定表

総合テーマ「伝統医療文化の問題圏」

6月15日（金）13:00～17:30

・講演（京都大学人文科学研究所、大会議室）

13:00～15:35

<セッション1 出土簡帛と医療文化>

名和敏光（山梨県立大学・准教授）「新出土医史籍をめぐる二、三の考察」

程少軒（復旦大学・副研究員）「放馬灘簡《鐘律式占》疾病占卜的數術模型」

胡穎翀（上海市中医文献館・助理研究員）「秦漢出土医方中的藥物加工与劑量」

15:50～17:30

<セッション2 近世養生学のベクトル>

劉青（京都大学人間環境学研究科・D2）「『活人心』版本系統考」

入口敦志（国文学研究資料館・教授）「江戸時代の養生書刊行とその普及」

6月16日（土） 9:30～18:00

午前の部 9:30～12:00

<セッション3 医薬文献の新考察>

成高雅（京都大学人間環境学研究科・D2）「富士川文庫の新出資料」

黄英華（北京中医薬大学図書館・助理研究員）

「朝鮮《医方類聚》引用中国傷寒金匱類文献考」

孟永亮（内蒙古医科大学中医学院文史各家教研室・講師）

「《太平御覽》所載医薬文献整理研究—以《疾病部》為考察中心」

張淨秋（首都医科大学・副教授）「滑寿医籍及其存世版本考辨」

午後の部 13:30～18:00

<セッション4 伝統科学文化の新アプローチ>

吳新明（広東省中医院名医工作室・助理研究員）

「《素問·玉版論要篇》的中医象数学初歩研究」

浦山あゆみ（大谷大学文学部・教授）

「陳蓋謨の『元音統韻』と『五車韻府』～科学と音韻のかかわり～」

王財源（関西医療大学・教授）「伝統医療文化からみた美容鍼灸学」

<セッション5 文化的伝統と医学教育>

松木宣嘉（四国医療専門学校・教員）

「四国医療専門学校が所蔵するふたつの張子二体組銅人形について」

付徳明（山西医科大学、副教授）「日本諾貝爾生理学或医学獎獲得者の成因研究」

牛亜華（中国中医科学院中医薬信息研究所、古籍資源研究室、研究員）

「民国初期中国的医学教育与日本」

17日（日）9：30～12：00

<セッション5 伝統医療の現代>

鄭賢月（大連大学護理学院、副教授）「満鉄遺跡与大連大学護理学院関係研究」

梁永宣（北京中医薬大学、兵庫医大中医薬孔子学院、教授）「日本漢方顆粒剤与中国医学」

財吉拉胡（中山大学社会学与人類学学院人類学系、副研究員）

「巡回診療的地縁政治学：対20世紀前半日本東蒙古巡回診療的考察」

6月17日（日）13:00～16:00

公開シンポジウム「アジアの中の日本古典籍—医学・理学・農学書を中心として—」

（国文学研究資料館「アジアの中の日本古典籍」プロジェクトとの共催イベント）

【基調講演】 真柳誠（茨城大学・名誉教授）

「漢字圏医史の定量比較・人文地理学研究」（日本語、PPTは中国語）

【研究発表】

高津孝（鹿児島大学・教授）

「薩摩、琉球博物學探論」（中国語）

平野恵（台東区立中央図書館・専門員）

「『採薬記』から名所記へ—『本朝奇跡談』—を中心に」（日本語）

福田安典（日本女子大学・教授）

「都賀庭鐘の読本 『通俗医王耆婆伝』（日本語）

【総合討論】

総合討論「中医学、漢方医学からエコヘルスを考える」（総合司会：武田時昌）